

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報
vol. 43

2024年11月13日

ピピオ子どもセンターは、法人事務所（事務局）を移転しました。

移転後の住所：〒730-0012 広島市中区上八丁堀7番10号 HSビル404号室
電話番号、ファクス番号は変更がありません

＼ よろしくお願いたします ／

子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 埼玉 参加報告

2024年9月28日、29日、子どもシェルター全国ネットワーク会議in埼玉に参加をいたしました。例年、全国各地から虐待防止に対する熱い思いを持った方々が一堂に会します。会議の場でなされる情報や意見の交換も大変貴重なものなのですが、集まる方々の熱をいただくために、会議に参加をしているような気がします。

私はこの度は「持続的運営のためのケース検討」をテーマにした分科会に参加いたしました。同分科会では、なんと、開催地である埼玉の「ぴっぴ」の皆様が検討事例の寸劇を行い、それをもとに意見交換を行うというものでした。皆様堂々たる演技で子どもや子ども担当弁護士、理事の葛藤が伝わる見事なお芝居でした。演劇っていいですね。

さて、同事例ですが、シェルター入居中の子どもの希望する活動の実現（通学など）と、シェルターの秘匿性や子どもの安全確保をいかにして両立させていくかについての議論を促す内容になっておりました。シェルターは緊急避難場所であり、秘匿性を堅守すべきことは間違いありません。しかし、それを徹底すると子どもの活動の自

由は大いに制限されることとなります。議論において、私は秘匿性vs子どもの活動の自由のいずれを優先すべきかという視点で検討を行っていたのですが、そのような視点ではなく、秘匿性を守りつつも関係者で知恵を出し合って何とかして子どもの希望を達成すべきという意見をお聞きし、改めてシェルターや子供とのかかわり方について見直すことができました。

2日目は、「こども若者シェルター」に関する意見交換等がなされました。こども若者シェルターとは、いわゆる「ト一横」、「グリ下」の子どもたちの安全な居場所づくりを確保する必要性から進められている事業です。支援を必要とする子どもたちのために様々な機関や施設が存在することは非常に素晴らしいことだと思います。もっとも、子どもたちにとって「生活場所」、「居場所」は分けて考えるべきであり、これらの峻別を意識せずに混同してしまうと機関や施設として十分に機能をしないおそれがあるということも意識させられる意見交換となりました。

弁護士 川崎 浩介

会員の皆様、変わらぬピピオへのご支援ご協力、誠にありがとうございます。全国では、休止・閉鎖に至るシェルターもある中、ピピオがこの14年間、事業を無事継続して来られたのも、皆さまからの様々なご支援ご協力のお陰と、心より感謝しております。一方、居場所を必要とする子ども達の絶えることがなかった、あるいは増えてきている(?)事は、残念な現実だと感じています。

この14年を振り返ってみますと、私に関わる学校現場でも、やはり児童・生徒、そしてその背後にある家庭の変化がひしひしと感じられます。ひとり親家庭の増加、友達親子の増加、虐待による要観察児童・生徒の増加、そして少数ですが社会的養護経験児童・生徒も増加しています。また、対話が困難な保護者の増加で、学校が疲弊しているという現実もあります。これまで、ある程度特殊と感じられていたピピオに来る子ども

達の状況は、今や決して特殊でもなく、今学校に居る子ども達のほんの一步先の姿ではないかとも感じています。子ども達が居場所を失う前に、どこで気づきどんな風に手を差し伸べれば良いのか、それを考えながら子ども達を見つめています。

昨年4月に発足した子ども家庭庁では、居場所を失った子ども達の存在が「ト一横キッズ」などと呼ばれ可視化されたことから、「こども若者シェルター」の創設に向け、検討会が開かれています。社会の目が、居場所のない子ども達に向けられ始めたのは良いことですが、まだまだスタートに過ぎません。居場所を失った子ども達の再生の場であるピピオは、これからも必要な場所として維持されなければなりません。どうぞ引き続き皆様方のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

理事 大石 結加

2024 年度通常総会のご報告

2024年度の通常総会を、2024年6月8日午後2時から広島弁護士会館で行いました。2023年度事業報告、2023年度決算報告の2つの決議事項、2024年度事業計画、2024年度活動予算の2つの審議事項が諮られ、いずれも承認可決されました。

私たちは、居場所がなく困難を抱えた子どもたちに安全で安心できる居場所を提供しその自立を支援していく活動を開始して14年目を迎える本年も、子どもシェルター「ピピオの家」、自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営を中心に活動していくと共に、「ピピオの家」「はばたけ荘」を旅立っていった子どもらに対するアフターフォローについても他機関との連携も含め当法人でできることを検討していくこと、また居場所がなく困難を抱えた子どもらを支援するセーフ

ティネットが充分でない実情を踏まえ当法人でできる事業がないかを検討していくことといった新たな事業についても検討していくことを確認しました。

総会では、各施設の職員や子ども担当弁護士の人材を確保することに悩んでいる実情に対する取り組みや当法人の事務局移転の際に事務所の一部をアフターフォロー活動のハブとなる機能を持たせていきたいこと、新たな事業として女子の自立援助ホームの開設の展望などについても、意見交換がなされました。

本年度も子どもシェルターや自立援助ホームを必要とする子どもらのために、皆様と力を合わせて活動していきたいと考えております。今後とも、よろしく申し上げます。

理事長 鵜野 一郎

■2023年度 「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者の概要

	ピピオの家（女子）	はばたけ荘（男子）
2023年度中の入居者数	9名	6名
うち2022年度からの継続	0名	4名
うち2023年度中の新規入居	9名	2名
入居時の年齢	14歳 2名 15歳 2名 16歳 3名 17歳 1名 19歳 1名	15歳 1名 17歳 1名
2023年度中の退居者数	6名	2名
入居期間	半月以内 2名 半月～1か月 3名 1か月～2か月 1名	5か月 1名 1年10か月 1名
退居後の行き先	親のもとへ 2名 アパートで一人暮らし 1名 自立援助ホーム 2名 その他の施設 1名	親のもとへ 1名 アパートで一人暮らし 1名

ボランティアスタッフ養成講座を開催しました

今年度の第14回ボランティアスタッフ養成講座は、6月19日から7月24日までの間に全6講を開催しました。

新しくボランティア活動への応募をされた皆さんのほか、現ボランティアの方、ピピオの家・はばたけ荘のスタッフも参加し、社会的養護経験者のお話し、発達障害・愛着障害、性暴力・性的同意などについて学びました。

今年度は募集のし方の不備により応募者の方が例年より少なくなりましたが、皆さん大変熱心に受講され、新しいボランティアスタッフとして加わって下さいました。

ボランティアスタッフの皆さま、今後ともピピオへのご協力をよろしくお願いいたします。

事務局

コタン（子ども担当弁護士）通信

直近4年でピピオのコタンを4件担当しました。年1件のペースです。私が担当する子は、比較的短期で出口が決まっている子が多く、全て児相が関与しているケースだったので、私個人の負担はそこまで重くありませんでした。また、担当理事の先生方のバックアップが強力で、細かいこともすぐにお返事がもらえて、とても心強かったです。

子育てを経験したことがないので、どこまでできるのかな？といつもドキドキしながらコタンを引き受けます。仲良くなれるかな？必要なサポートができるかな？と思いながら、初回面談に臨みます。みなさん良い子で、私の話もよ

く聞いてくれるし、ぽつぽつとでもお話してくれます。一緒に生活をしているスタッフの皆さんほどは仲良くなれませんが、弁護士だから話してくれる話題もある様子で、その子のことを「よく聴く」ということをスタートにしています。

性的虐待で避難した子には、警察の手続きなどが入るタイミングで、手続きの一般論やどういことが将来起こりうるのかということや伝えたり、警察での取調べが終わったあとはその感想を聞いてみたりしました。もっとも、二次被害の危険があるので、私からは虐待の内容は聞き出さないようにしています。

これからの生活について選択肢がある子とは、
どういう生活が良いのかを一緒に考えました。
施設で生活をするのか、親戚の家で生活をする
のか、その親戚との距離感やピピオに入ること
になった原因との兼ね合いも考えます。基本的
には児相の担当者と本人との面談で決まってい
くことでしたが、コタンとして「一緒に考える」
ということ意識しました。

コタンの仕事に、退所後も何かあったときに
相談対応する、ということがあります。LINE
やショートメッセージ、メールなど、その子
の使いやすさに応じて交換してみました。が、
何かあったら連絡してもよいよと伝えましたが、
連絡は来ませんし、こちらからも何を話してよ
いのやら、連絡を続けるのは難しいですね。

少し特殊だったコタンの仕事としては、高校

の下校の付添いというものがありました。連れ
去りの危険なども考慮してのことでした。音楽
が好きな子だったので、片道一時間半の道のり
は、私の携帯を使って好きな音楽をきく時間と
なりました。イヤホンをシェアして、お気に入り
のアーティストを紹介し合いながら、音楽を
聴くだけの時間。2人で交わした言葉は少な
かったけど、音楽で繋がれたような気がしまし
た。この前、その子が入所した施設に行ったら、
子供を授かって幸せに過ごしてるよ、と教え
てもらいました。写真を見せてもらい、雰囲気
も180度変わって、とても幸せそうに笑って
いました。

コタンは、その子が幸せになる過程でちょ
とだけお手伝いさせてもらえる、いい仕事だ
なと実感しました。

弁護士 工藤 舞子

ピピオ掲示板

寄付等のご協力 ありがとうございます

平田様、川瀬様、神原様、小武家様、井上様、高井様、有限会社田中木工様、山口様、寺西様、倉田様、片桐様、瀬戸様、神田様、野口様、国際ソロプチミスト広島-もみじ様、高橋様、石田様、向田様、ヨシノ様、株式会社サウンドハウス様、奥様、梶山様、開原様などから寄付金等をいただいております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場を借りて御礼申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0012 広島市中区上八丁堀7番10号 HSビル404号室

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>